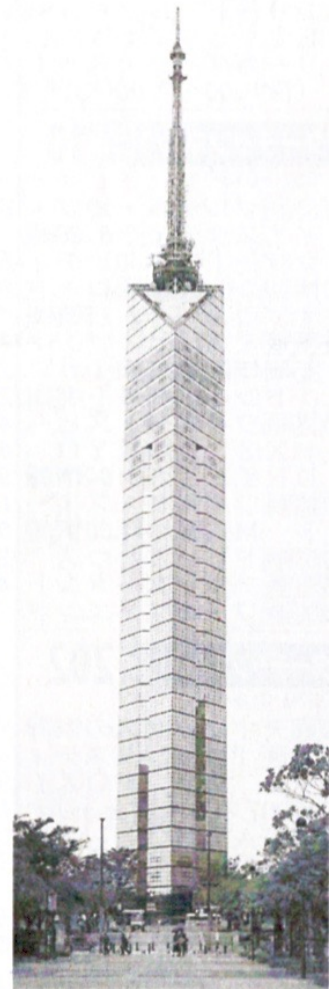


# 福岡タワー 若返る

## 全面改装 展望フロアにVRなど導入

福岡市の代表的観光スポット、福岡タワー（高さ234.5m）が、1989（平成元）年の開業以来、初めての全面改装を終え、1日、営業を再開した。VR（仮想現実）装置などを導入し、景色以外にも楽しめる設備を充実させた。

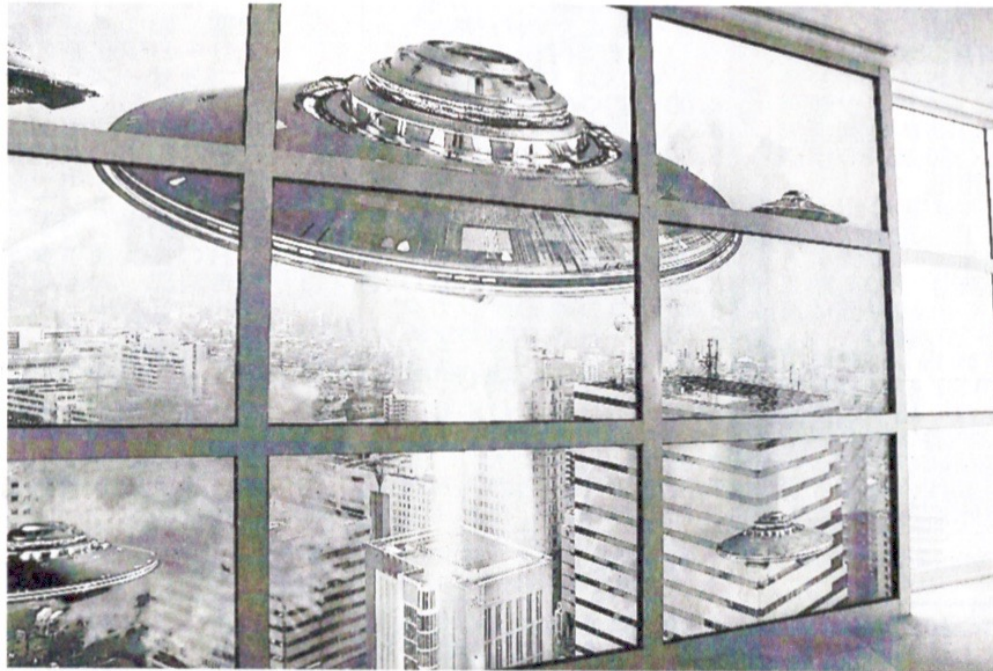
福岡タワーは、「アジア太平洋博覧会（よかトピア）」のシンボルとして福岡市早良区に誕生した。高さ123.3mの展望フロアから、博多湾や街並みが一望できることが魅力だが、老朽化が進み、1月4日から改装していた。新たに採り入れたVR装置「SKY Walk 123歩」は、双眼鏡型の装置を顔



福岡の街になじみ、ランドマークとして親しまれる現在の福岡タワー

に当たると、展望フロアと同じ高さ123.3mの上空から、能古島（西区）やアイランドシティ（東区）など、市内13地点を眺める体験ができる。展望フロアの窓に備えられた液晶画面「ハプニングウィンドウ」には、AR（拡張現実）を活用。普段は風景が映し出されているが、突然、UFOやロボットが現れる。このほか、空からカプセルが落ちてくることをイメージした「天空ガチャ」なども新設した。展望フロアの一角は、星が瞬く夜空を再現した。

6月の点検日を除き、年中無休。  
（柏樹利弘）



展望台から見える風景にUFOが登場する液晶画面11個も福岡市早良区百道浜2丁目



2人が手をつないでハート形のモニュメントにタッチすると点灯する「恋人の聖地」